安全データシート（ＳＤＳ）

作成日 : 2009 年 11 月 20 日
改訂日 : 2026 年 03 月 20 日

１．製品及び会社情報

製品

製品名	SRKシールC　主剤

会社情報

会社名	シンレキ工業株式会社
住所	〒 144 - 0052　東京都大田区蒲田 5 丁目 44 番 5 号
緊急連絡先	中央研究所
電話番号	044 - 366 - 1617
FAX 番号	044 - 366 - 1618

推奨用途及び使用上の制限

・当社製品SRKシールC硬化剤を添加し、常温ひび割れ補修材として使用。（業務用）

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2
発がん性	区分2
生殖細胞変異原生	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器系）
誤えん有害性	区分に該当しない
水生環境有害性　短期（急性）	区分3
水生環境有害性　長期（慢性）	区分3

※ 記載が無いものは区分に該当しない又は分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

・強い眼刺激
・呼吸器への刺激のおそれ
・遺伝性疾患のおそれの疑い
・発がん性のおそれの疑い
・長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器系）

・水性生物に有害
・長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

〔安全対策〕

・使用前に安全データシート又は取扱い説明書を入手すること
・すべての安全注意事項を読み理解するまで取り扱わないこと
・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること
・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること
・この製品を使用する時に飲食又は喫煙をしないこと
・汚染された作業衣は作業場からださないこと
・取扱い語はよく手を洗うこと
・勘気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること
・適切な保護手袋、保護衣、保護メガネ/保護面を着用すること
・取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと

〔救急措置〕

・吸入した場合：空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。呼吸が困難な場合には、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・眼に入った場合：水で 15 分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。・取り扱った後、手を洗うこと。
・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
・ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
・呼吸に関する症状が出た場合、気分が悪い時には、医師の診断/手当てを受けること。
・特別処置が緊急に必要である。
・粉末消火剤/耐アルコール性泡消火器/又は二酸化炭素、防災砂を用いて消化すること。

〔保管〕

・換気の場所よい場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

〔廃棄〕

・内容物や容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3．組成及び成分情報

単一化学物質･混合物の区別	・混合物	
化学名又は一般名	・ゴム改質アスファルト乳剤	
成分及び含有量	・① 石油ストレートアスファルト	50 ～ 60 %
	・② スチレン・ブタジエン共重合体	20 ～ 30 %
	・③ 水等	15 ～ 25 %
化学式	・特定できない	
CAS 番号	・① 8052 - 42- 4　② 非公開　③ 非公開	

官報公示整理番号（化審法）　・①　(9) - 1720　② 非公開　③ 非公開
（安衛法）　・① 12 - 189　②、③化審法を準用

4．応急措置

吸引した場合

・エマルジョンは水を分散媒体とした揮発性の低い液体で、吸入の可能性は少ない。新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸したすい姿勢で休息される。気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

・付着した身体部位を水で洗浄する。また、汚染された衣類を直ちに脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹸水で洗う。皮膚の刺激が持続する場合は、医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合

・清浄な水で 15 分間以上眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・目の刺激が続く場合は、必ず医師の診断／手当を受けること。

飲み込んだ場合

・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断／手当を受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗うこと。気道に入ったと思われるときは、直ちに医師の診断／手当てを受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候

・特になし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

・救助者が有害物質に触れないよう適切な保護手袋や保護メガネを着用する。

医師に対する特別な注意事項

・現在のところ有用な特になし。

5．火災時の措置

・本製品は水を多量に含むため、そのままでは引火及び八加藤の燃焼性はない。仮に、製品乾燥物に着火した場合について次の措置をとる。

消化剤

・水、炭酸ガス、ドライケミカル等の一般消火剤が有効である。

使ってはならない消火剤

・棒状水の使用は火災を拡大し、危険な場合がある。

火災時の特有の危険有害性

・加熱により、硫化水素/一酸化炭素を発生する場合がある。発生するミスト/煙/蒸気/ヒュームを吸い込まないようにする。

特有の消化方法

・製品乾燥物に着火した場合は、注水・水噴射・ドライケミカル等、一般消火剤を使用し消化は風上から行う

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

・消火作業では、長袖、長ズボンを着用し、適切な保護具（手袋、メガネ等）および給気式呼吸用保護具を使用する。

６．漏出時の措置

人体に対する予防措置、保護具及び緊急時措置

・作業の際には、適切な保護具（保護手袋、保護面、保護メガネなど）を着用する。

環境に対する注意事項

・万一、公共水域へ流出した場合は、必要に応じて所轄の消防署、警察署当の監督官庁へ届け出ること。

・本製品は、河川・湖沼等に流入すると少量でも広範囲にわたり汚濁させる。

・河川・湖沼等公共水域及び下水への流入は絶対に避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

・漏出源を遮断し、漏れを止める。

・少量の場合 ： 乾燥砂・オガクズ・ウエス等に吸収させ回収する。

・大量の場合 ： 盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから回収する。

・二次災害の防止策：特になし

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

・「**８.暴露防止及び保護措置**」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

・「**８.暴露防止及び保護措置**」に記載の局所換気・全体換気を行う。

注意事項

・室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行い、火気に注意する。

・取扱い後、うがいを行い石鹸で手を洗うこと。

安全取扱注意事項

・SDS や全ての安全注意事項を読み、理解してから取り扱う。

・有害物が目や皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し作業を行う。

・取扱い後は、手・顔当を良く洗い、休憩所などに汚染された保護具を持ち込まない。

接触回避

・「**１０．安定性及び反応性**」を参照。

衛生対策

・取扱い後、うがいを行い石鹸で手を洗うこと。

保管

技術的対策

・炎及び高温のものから遠ざけること。 混触禁止物質

保管条件

・直射日光を避け、凍結を避けるために密閉容器で 5 ～ 40 ℃の室内に保管すること。

・冬季に保管する場合は、シート等で包んで保温手当てをし、凍結させないようにすること。
凍結すると、乳化破壊が起こり使用できなくなる。

・水回りや湿度の高いところに置くなどによる水濡れによって、ダンボール箱の破れや荷くずれ等に注意すること。

容器包装材料

・製品使用容器に準ずる。

8．暴露防止及び人に対する保護措置

管理濃度

・設定されていない。

許容濃度

・製品に対する有用な情報なし。

・アスファルト　　TWA　0.5 mg/m^3　ACGIH

設備対策

・使用に当たっては換気を良くする。

・換気の悪い場所で使用する場合、換気装置を設置する。

・取扱場所の近辺に、洗眼、水洗設備を設置することが望ましい。

・管理濃度又は許容濃度、濃度管理基準が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置、その他の装置により、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。

保護具

呼吸用保護具

・状況に応じた適切な呼吸器用保護具必要に応じて着用する。作業者が粉じんにばく露される環境では防じん機能も付いている呼吸用保護具を使用する。

・高濃度のガスや蒸気にばく露される場合や密閉された空間で作業する場合は、送気マスクの装着を検討する。

手の保護具

・ゴム又は樹脂製の不浸透性の保護手袋等を着用する。

眼の保護具

・ガラス又は樹脂製の側板付き保護メガネ、ゴーグル、面体を作業状況に合わせて着用する。

皮膚及び身体の保護具

・厚手の布製で液体が浸透しにくい長袖、長ズボンを着用する。履物は、不浸透性の材質の保護靴を着用する。頭部は、保護帽、必要に応じてヘルメットを着用する。

特別な注意事項

・作業後、手を良く洗い、うがいをしてから喫煙、飲食等をする。

9．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	黒色の液体
臭い	ラテックス臭
pH	11
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	100 ℃（沸点）
引火点	データなし（製品）
	260℃（COC）（アスファルト）
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	1.00 g/cm^3
溶解度	水と接触すると凝集
n-オクタノール／水分配係数	データなし

自然発火温度	データなし（製品）
	約 480℃（アスファルト）
分解温度	データなし
動粘性率	1,700 mm^2/s（25℃）

１０．安定性及び反応性

反応性

・情報なし

化学的安定性

・室温では安定。

危険有害反応可能性

・禁水性物質との接触を避ける。

・水と接触すると凝集する。

避けるべき条件

・加温、高温、直射日光、氷点下及び混触危険物質と接触しないこと。

混触危険物質

・禁水性物質と同一の場所での保管は避ける。

危険有害な分解生成物

・製品乾燥物が燃焼した際は、一酸化炭素、塩素ガス、亜硫酸ガス等の有毒ガスが生成される。

１１．有害性情報

急性毒性（経口）	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	区分に該当しない。急性毒性は低いとされる。 減圧蒸留残渣油として、ラット LD50 5,000mg/kg 以上。
急性毒性（経皮）	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	区分に該当しない。急性毒性は低いとされる。 減圧蒸留残渣油として、ウサギ LD50 2,000mg/kg 以上。
急性毒性（吸入：気体）	
本製品	データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	
本製品	データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	
本製品	データ不足のため分類できない
アスファルト	データ不足のため分類できない
	減圧蒸留残渣油として、ラット LD50 2,000mg/m3 以上 (Exposure time:4.5 h)
皮膚腐食性/刺激性	
本製品	データ不足のため分類できない
アスファルト	データ不足のため分類できない

	なお、減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。ただし加熱された本製品との接触は火傷の恐れがあるので注意すること。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	
本製品	常温における固体状態での有害性に関するデータは確認できないが、加熱された場合の職業ばく露において、ストレートアスファルトしての蒸気による結膜炎の報告や眼刺激性が複数報告されていることから区分 2 としている。
アスファルト	減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。アスファルト蒸気／ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものであったとの記載がある。溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。
呼吸器感作性	
本製品	分類できない
皮膚感作性	
本製品	分類できない
アスファルト	データ不足のため分類できない 現在のところ有用な情報なし。なお減圧蒸留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある
生殖細胞変異原性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性／陰性のデータが存在する。しかしながら in vivo 体細胞変異原性試験／体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらに本物質は変異原性があるとの記載 を総合的に考慮し区分 2 とした。
発がん性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミッション」による職業ばく露について IARC は、「グループ 2B」(発がん性があるかもしれない)に分類している。なお IARC は「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質及び気体、及び気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造，運搬，舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が 1 日に 4～9 時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。EU CLP 規則（1272/2008/EC）付属書Ⅳ Table 3.1 および 3.2 に記載されていない。（有害性として分類されない）

生殖毒性	
本製品	データ不足のため分類できない
アスファルト	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを 3 ヶ月毎に 200mg 皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。アスファルトヒュームに含まれる硫化水素／一酸化炭素により気道刺激性があることが知られていることから区分 3（気道刺激性）とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6～7h／日、5 日／週で 21 ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、膿瘍、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮暴露では皮膚炎、ざ瘡（にきび）様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。ヒトにおいて呼吸器系に影響がみられていることから区分 1（呼吸器系）とした。
誤えん有害性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	区分に該当しない。アスファルトは炭化水素化合物以外に、元素分析により微量ないし僅かに硫黄、酸素、窒素、金属バナジウムなどを含むとの記述より、純粋な炭化水素の混合物でないこと、並びにヒトで吸引性呼吸器有害性を示したとの事例がない。また、動粘性率が 8,000mm2/s 以上であることから、区分に該当しないとした

１２．環境影響情報

生態毒性	
魚類	
本製品	ヒメダガ（LC50）　　10＜LC50＜100 mg/L-96hr
アスファルト	分類できないデータなし
スチレンブタジエン共重合体	ヒメダガ（LC50）　　＞100 mg/L-96hr
甲殻類	
本製品	オオミジンコ（EC50）　10＜EC50＜100 mg/L-48hr
アスファルト	分類できないデータなし
スチレンブタジエン共重合体	オオミジンコ（EC50）　1.0＜EC50≦10 mg/L-48hr

藻類	
本製品	プセドキルクネリエラ類　＞100 mg/L-72hr
アスファルト	分類できないデータなし
スチレンブタジエン共重合体	プセドキルクネリエラ類　＞100 mg/L-72hr
水生環境有害性 短期（急性）	
本製品	類似製品の製品試験結果より区分 3 とした。
アスファルト	分類できない。データなし
スチレンブタジエン共重合体	分類できない。データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	
本製品	慢性のデータはないが、類似製品の製品試験結果より区分 3 とした。
アスファルト	分類できない。データなし
スチレンブタジエン共重合体	分類できない。データなし
残留性・分解性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト（残留性）	アスファルトは常温で蒸発しないが、道路舗装や屋根防水等の工事のために加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壌に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壌中では移動性はない。
（分解性）	アスファルトの水生環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根防水に利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する(分解しない)物質であり、生分解性がないことが特長でもある。
スチレンブタジエン共重合体	有用な情報なし
生態蓄積性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	データなし。 アスファルトの構成成分の log Kow は 6 以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。
スチレンブタジエン共重合体	有用な情報なし
土壌中の移動性	
本製品	有用な情報なし
アスファルト	土壌中で移動性はない。
スチレンブタジエン共重合体	有用な情報なし
オゾン層への有害性	
本製品	分類できない。データなし
アスファルト	分類できない。データなし
スチレンブタジエン共重合体	分類できない。データなし

１３．廃棄上の注意

・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
・加熱により、硫化水素/一酸化炭素を発生する場合がある。発生するミスト/煙/ヒュームを吸い込まないように廃棄する。
・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処分する。

１４．輸送上の注意

国際規制

国連番号	・非該当
品名	・非該当
国連分類	・国連の分類に該当せず
容器等級	・非該当
海洋汚染物質	・非該当

国内規制

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上	労働安全衛生法	・通知対象物質（アスファルト）
海上	船舶安全法	・非危険物
航空	航空法	・非危険物

運送又は輸送手段に関する特別の安全対策

・直射日光を避け、5～40℃で輸送する。
・容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転落、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行なう。

１５．適用法令

アスファルト

労働安全衛生法	第 57 条の 1 名称を表示すべき危険物および有害物
	第 57 条の 2 名称を通知すべき危険物および有害物
	第 57 条の 3 危険性又は有害性を調査しなければならない物質
	皮膚等障害化学物質（安衛則第 594 条の 2）
海洋汚染防止法	油分排出規制
水質汚濁防止法	油分排出規制

１６．その他の情報

参考資料

GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 － ラベル,作業場内の表示及び安全データシート（SDS）JIS Z 7253 : 2019
化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度（平成 24 年 10 月）
石油アスファルト乳剤 JIS K 2208 : 2009 日本アスファルト乳剤協会規格 JEAAS : 2011
製品評価技術基盤機構（NITE）
原材料の安全データシート（SDS）

記載内容の取扱い

・安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

・すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをおすすめします。なお、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

記載内容の問い合わせ先

・担当部門	シンレキ工業株式会社　中央研究所
・住所	〒 210 - 0867　神奈川県川崎市川崎区扇町 6 番 2 号
・電話番号	044 - 366 - 1617
・FAX 番号	044 - 366 - 1618
・メールアドレス	kenkyu@shinreki.co.jp
・受付日時	月曜日 ～ 金曜日（祝日は休業）　8 : 30 ～ 17 : 30